

**日経**  
NIKKEI  
CONSTRUCTION

# エンジニアクション

特集■工事成績・コンサルタント業務成績2009

## 80点の取り方

好成績者は必ず発注者のニーズを先取り

特別レポート

### 破綻する豪雨災害対策

崩れても人命だけは守る「減災」へ

追跡 民主党政権下の土木

### 前原誠司国土交通大臣

### 緊急インタビュー

全国平等の整備は目指さない



# 5現場続けて80点超え 専門工事会社とのチームワークを重視

桂川 誠氏 (大和小田急建設名古屋支店工事課副部長)

81点、80点、82点、84点、82点——。これらの点数は、大和小田急建設名古屋支店工事課の桂川誠副部長が担当してきた国土交通省(旧建設省時代も含む)発注の5工事の成績評定点だ。

桂川副部長は「自分の技術力が高いとは思わない。ただ、チームワーク次第で高得点は取れる」と分析する。作業所内をはじめ、専門工事会社や管理部署、営業部署など、様々な部門が一つのチームとして活動で

きる環境づくりを心掛けている。

同社名古屋支店静岡営業所の奥村祥三営業所長は、桂川副部長の特徴の一つとして「専門工事会社を尊重する姿勢」を挙げる。例えば、桂川副部長は専門工事会社の作業員の意見を積極的に取り入れる。大手建設会社受注の難工事に携わった作業員には知識がある。

「作業員からは技術的なことを教わることが多い。私が話に乗りやすいタイプなので、彼らも次々と提案

してくれるのだろう」と桂川副部長は笑みを浮かべながら話す。

82点を取った愛知県の23号知立BP井池高架橋下部工事では、「ほかの現場で効果があった」との作業員の提案を受け入れて、国交省の新技术情報提供システム(NETIS)登録のピカコンという器具を採用。打設中の固まっていないコンクリートにピカコンを挿入して引き抜くと、ピカコンに気泡が付いて除去できる。

部分的にテストをしてみて効果が

## Profile

かつらがわ・まこと  
1961年生まれ。83年に中央大学工学部土木工学科卒業後、小田急建設(現・大和小田急建設)に入社。資格は一級土木施工管理技士、コンクリート技士など。1997年度23号境川改良工事で、優良工事施工者として国土交通省中部地方建設局長表彰、2000年度1号静岡楠新田地区共同溝工事で、優良技術者として国交省静岡国道事務所長表彰

## ◎好成績のための必須事項

- トップからのメッセージを良く理解し、自分が行動すべき役割を果たす
- お客様の立場で物事を考え、役に立ちたいという気持ちを持ち続ける
- お客様の要望にスピーディーに対応する
- お客様に良い製品、成果物を提供する努力を惜しまない
- 環境保全を重視し、工事地域の住民に感謝する

(写真:本誌)

あったことから、本格的に採用し、コンクリートの品質を向上させた。

### 出来形管理システムで精度向上

専門工事会社とともに工事を進める姿勢は、4現場で11点台後半の点を得た出来形の項目(満点13.9点)にもみられる。桂川副部長は、規格値どおりの躯体構築を目指す。

作業員は、躯体を大きめに造りがちだ。国交省の出来形管理基準値や規格値によると、例えば橋台の幅は、規格値のマイナス側の許容誤差は規定されていても、プラス側の規定はない。躯体を大きめに造ることに問題はないのだが、その分、施工コストはかかり、見栄えは悪い。

「習慣でセパレーター長に余裕幅

をみる職人さんは多い。そういった点を初めに確認して指導する」(桂川副部長)。

現場では、出来形管理システムを発注者への提出用書類の作成だけでなく、作業員の説明にも使用する。グラフ上で出来形の精度を把握できるので、作業員にも説明しやすい。

安全対策の徹底ぶりも目を引く。作業員の安全教育では、一般的に1カ月に半日程度実施すればよいところを、それ以外に約2時間かけて3回ほど実施する。さらに、工種別教育を1カ月に2回、コンクリートの打設では直前にも最終確認をする。

「個人的には利益よりも安全を重視するという姿勢で現場を運営している」と桂川副部長は話す。

安全教育の回数が多くなれば、作業員の労働時間は少なくなり、支払いは減る。そこで、桂川副部長は、専門工事会社との契約の際に、安全教育の頻度が多いことを話して経費を多めに見積もらせ、きちんとした対価を支払うようにしている。

「作業員の大半は、安全のためにやっている、我々の意図をくみ取ってくれる」(桂川副部長)。

### 騒音問題では作業員の声にも注意

地域への貢献など(満点6.4点)も、過去4現場とも5.4点と高い。一般的に地域貢献といえば、草刈りなどの町内行事に参加することとらえられがちだ。しかし、「草刈りなどは当然やるべきことだが、発注



左は、コンクリート打設などの直前に10分ほど時間を取って注意点を最終確認している様子。右は、井池高架橋工事の完成後の写真。上の器具(ピカコン)を使用して半分ほどの橋脚を施工した  
(写真:37ページまで特記以外は大和小田急建設)

### 過去5工事の項目別評定点

工事名	評定点合計 (100点)	安全対策 (10.7点)	出来形 (13.9点)	品質 (15.9点)	地域への貢献など (6.4点)
06年度 23号知立BP井池高架橋下部工事	82	8.8(82%)	11.9(86%)	12.5(79%)	5.4(84%)
04年度 伊豆縦貫岡宮ICランプ建設工事	84	8.8(82%)	11.9(86%)	11.8(74%)	5.4(84%)
03年度 1号静岡安倍川大橋橋脚補強工事	82	9.2(86%)	11.5(83%)	12.5(79%)	5.4(84%)
00年度 1号静岡楠新田地区共同溝工事	80	8.8(82%)	11.5(83%)	12.5(79%)	5.4(84%)
97年度 23号境川改良工事*	81	-	-	-	-

(参考)08年度の平均点

74.9	8.0(75%)	10.7(77%)	11.2(70%)	5.1(80%)
------	----------	-----------	-----------	----------

表中、1番上の欄のカッコ内の点はそれぞれ満点を示し、それ以外のカッコ内の値は満点に対する項目別評定点の割合を示す。1番下の「08年度の平均点」は、2008年度に国土交通省が検査した工事成績評定点について本誌が算出した。対象とした工事は54ページ参照。以上の内容は42ページまでに出てくる項目別評定点の表でも同様

\*97年度工事の項目別評定点の開示はなかった

者へのアピールポイントではない」と桂川副部長は言い放つ。

「平穏な場所で工事が始まり、騒音や粉じんなどの問題で起きうる変化を最小限にとどめることが自分たちの義務であり、地域への貢献にもなると考える」。

例えば、周辺住民にとって、工事での騒音は大きな問題だ。重機音はもちろん、作業員が話す声は意外に響く。安全性を高めるために大きい声を出すのは仕方のないことだが、それが続くと住民に迷惑がかかる。

「職長が思ったとおりに現場が動かないと、指示は増える。そうならないように作業手順をこまめに確認する」(桂川副部長)。声が大きな人には個別に声をかけることもある。

### 会社の取り組み 住民アンケートを現場の改善に生かす

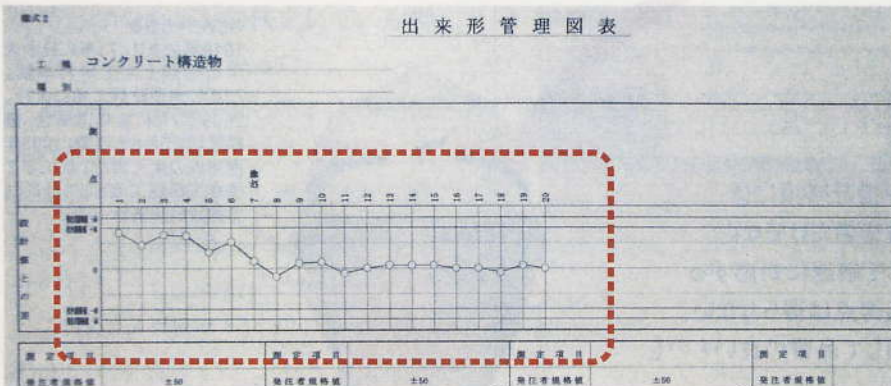
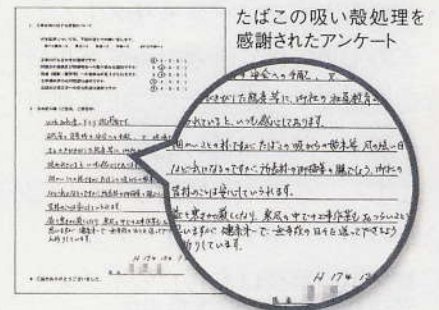
大和小田急建設名古屋支店では、工事の際に近隣の住民へアンケート調査を実施している。住民とのコミュニケーションは重要だが、親しくなればなるほど、住民は苦情などを言いつらくなる。その点、アンケートなら胸の内を明かしてもらいやすい。

アンケートは、中間検査時や完成時に実施する。環境への取り組みや対応の態度などについて5段階で評価してもらう。可もなく不可もなければ3の評価となる。

中間検査時のアンケート結果は、竣工までの工事に生かせる。「今までの工事で2の評価をもらったことはないが、3の評価はあった。そのときは、住民に探りを入れながら、何が問題だったのかをそれとなく聞き出して改

善につなげた」(桂川副部長)。

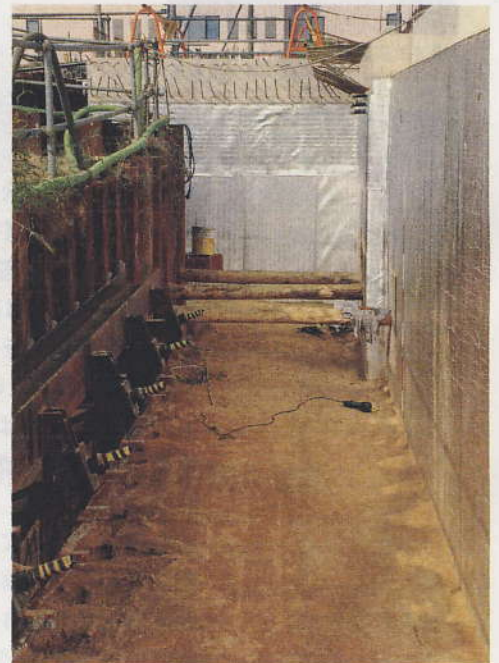
桂川副部長が手掛けた工事のアンケートで、たばこの吸い殻の後始末が行き届いていると、住民から感謝されたことがあった。ただし、桂川副部長は行間を読んで、周りの現場での配慮が行き届いていないことを言いたいのではないかと感じ取り、隣の建設会社に注意を促したこともある。



出来形管理システムの出力紙。精度の誤差が次第に0に近付いている。桂川副部長は、作業精度を高めてもらうため、工事中にグラフを作業員に見せながら説明する(資料:大和小田急建設)



井池高架橋工事では、風が強く、周辺道路に場所打ち杭施工時の泥水が飛散する恐れがあった。そのため1mmメッシュの飛散防止ネット(赤い矢印の部分)を特注でつくった。作業員と考えた工夫の例



桂川副部長の安全性を重視する姿勢は、現在の担当現場でもうかがえる。埋め戻しで規定どおりに転圧したが、万が一、転圧不足があれば鋼矢板は変形してしまう。近隣の重要幹線への影響が気になった桂川副部長は、ひと手間かけて丸太の盛り替え梁を設置した(写真:本誌)